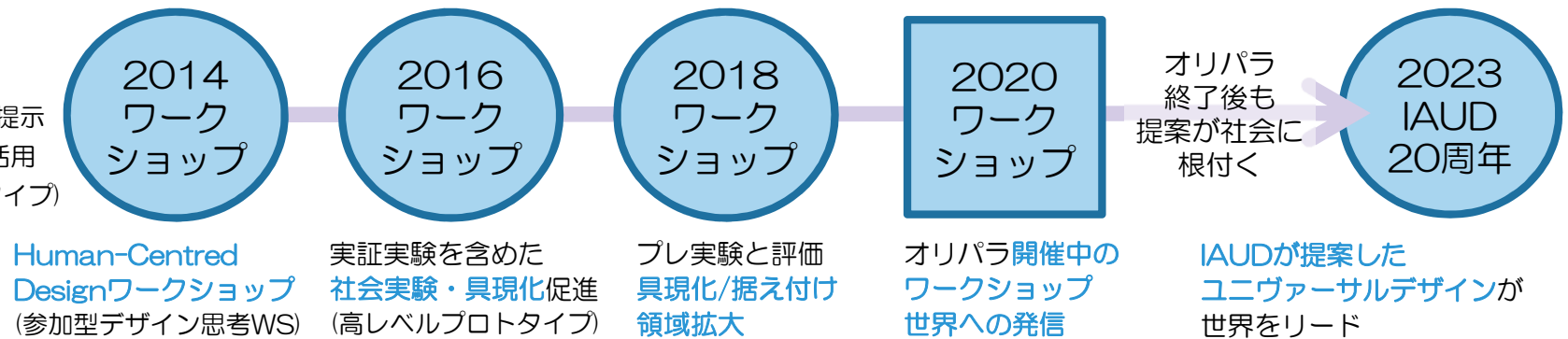


① 2020に向けたロードマップ(2023(IAUD20周年)に向けたロードマップ)

- ・「東京+福島(復興)」を連携した、「新しい都市と地方/多様な人のあり方」の提案と具現化。
IAUD発信の「2020のユニヴァーサルデザイン」を構想、具現化する。
- ・パラリンピック、デフリンピックへの社会的関心、行動を生む。
- ・ステークホルダー(海外からの旅行者、国内の旅行者、地域にいる日本人/外国人、出場者、サポーター、スタッフ、ボランティア、高齢者、障がい者、子供たち、技術者、企業、などの多様な人々)と、その活動/コミュニケーションのあるべき姿、サポートの方法を提案。
- ・2014のワークショップで、視点を抽出し方向性をプロトタイプ。政府や産業界に発信し、2020に向けた具現化の動きをキックする。

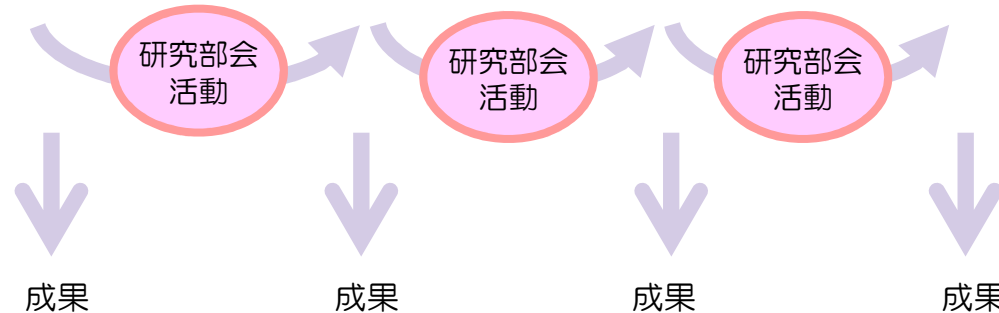
●国際会議WS

- ・多様な人の参加
- ・視点/切り口の発見/提示
- ・IAUD研究会成果の活用
- ・具体的方向(プロトタイプ)の提示



●IAUD研究部会

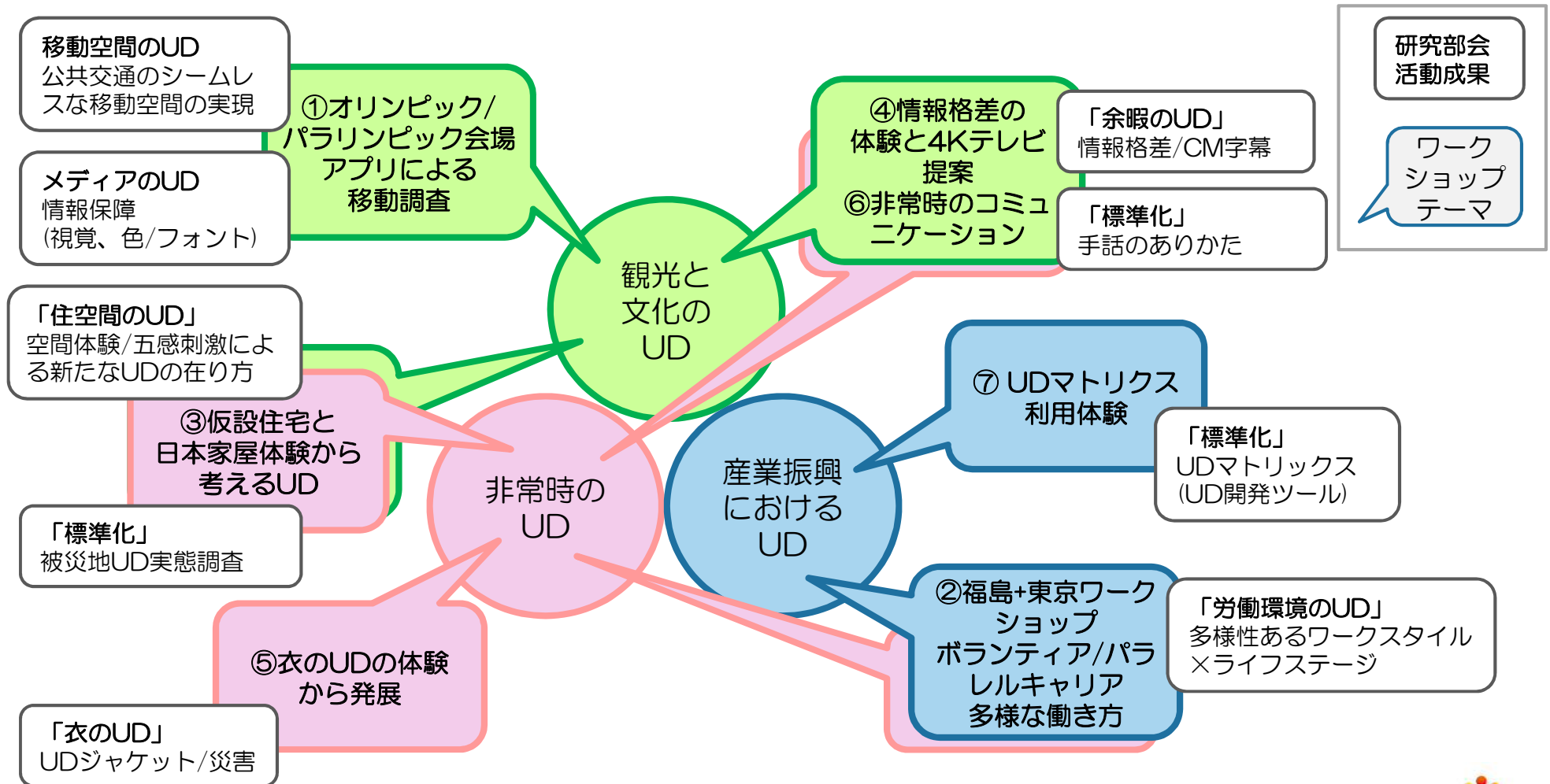
- ・WS結果を活用したアウトプットの生成



② 2014ワークショップのテーマと研究部会の連携

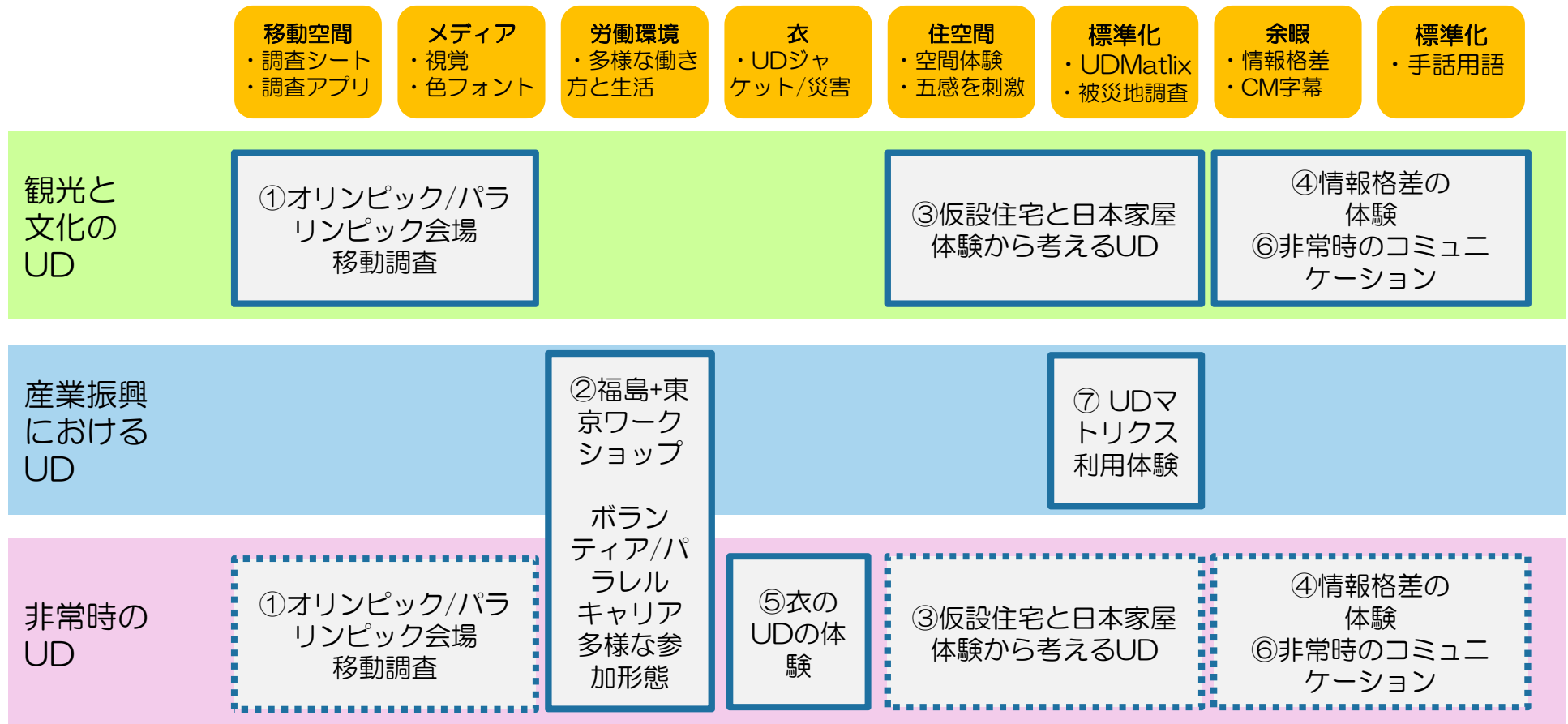
- ・ 2020年に対し、UDのグローバル展開の3つの視点をベースに、研究部会活動成果の活用/成果の検証とブラッシュアップの視点を持って、テーマを設定する

*テーマと対応づけは案です



③ 2014ワークショップのテーマと研究会の連携

- ・ 2020年に対し、UDのグローバル展開の3つの視点をベースに、研究会活動の成果の活用/成果の検証とブラッシュアップの視点を持って、テーマを設定する



④ ワークショップ 開催パターン候補案

- ・基本的に、会場内の一つのワークショップルームでシリアルに行い、「見学者」が参加しやすいようにする。
- ・体験型WSも、できるだけ屋外でのフィールドワークを採り入れる(FW40分+議論60分)。
- ・但し、フィールドワーク部分がWSセッションと並行となるため、参加者はすべてには参加できない。

